

領土・主権展示館 ミニ企画展

アホウドリ



—— 地球を旅する奇跡の鳥 ——



尖閣諸島 南小島



尖閣諸島南小島の写真出典：内閣官庁ウェブサイト 鳥の写真提供：東邦大学/長谷川博

アホウドリのきほん



てれるけど自己紹介するね！

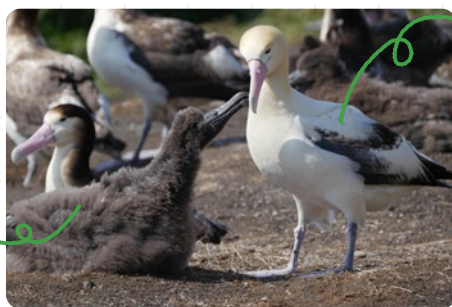
きほん 1

ぼくたちは、北太平洋に住んでいるよ。北太平洋では最大の海鳥なんだ。

きほん 2

ぼくたちは、渡り鳥。あちこちを飛び回り、

- ・夏は、えさの豊富な北の海で過ごし（パネル「アホウドリの渡りと移動（推測）」の緑色の海域）
- ・秋～春は、南に移動し（パネル「アホウドリの渡りと移動（推測）」のピンク色の海域）、子育てをする時だけ、はなれ小島に上陸して集団で生活するよ。



ヒナ

成鳥

全長：約 80 ～ 90cm
体重：約 4 ～ 7kg



写真提供：東邦大学／長谷川博

きほん 3

好きな食べ物は、海面にういているイカ、魚、魚の卵、オキアミなど。海面に下りて食べるよ。



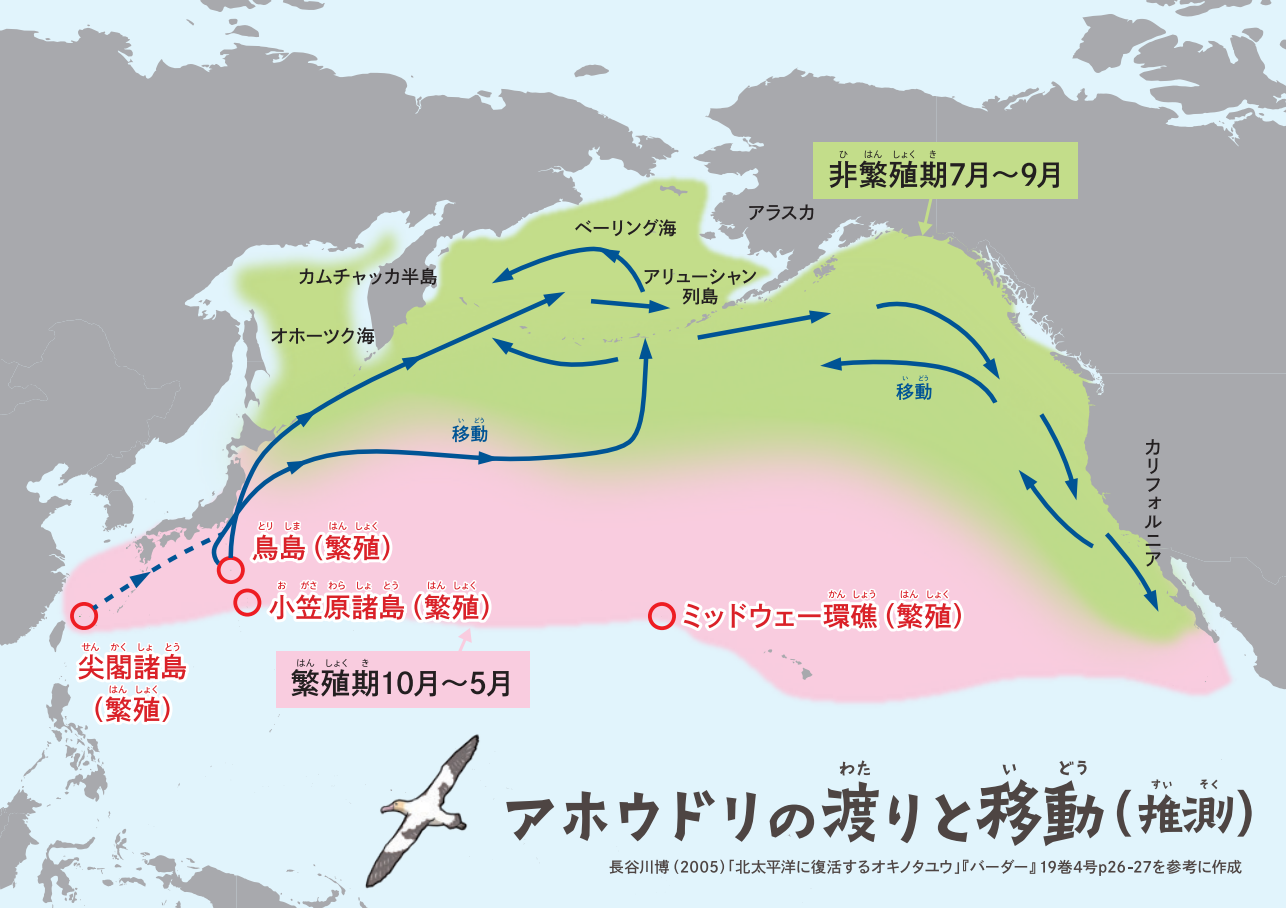
イカ・トビウオ
写真提供：山陰鳥類研究所



オキアミ
出典：宮城県水産技術総合センターウェブサイト

アホウドリのデータ

和名：アホウドリ
学名：*Phoebastria albatrus*
英名：Short-tailed Albatross
分類群：ミズナギドリ目アホウドリ科
保護の状況：
特別天然記念物（文化財保護法）
国内希少野生動植物種（種の保存法）
絶滅危惧Ⅱ類（環境省レッドリスト 2020）



アホウドリの住む島

鳥島と尖閣諸島



ぼくたちの住みかを紹介するね！

1

アホウドリの営巣地は、伊豆諸島の鳥島、小笠原諸島の聳島列島、沖縄の尖閣諸島、大東諸島、台湾北方の彭佳嶼、台湾西方の澎湖列島など19世紀後半には少なくとも14の営巣地があったよ。

2

このうち、鳥島などには、江戸時代、数多くの船乗りや漁師が流れ着いたよ。たとえば、野村長平という土佐（今の高知県）の船乗りは、あしかけ13年(1785-1797年)も鳥島で生きぬいて自力で本土に帰ったよ。そして、アホウドリがたくさん住む南の島があることが知られることになったよ。

3

明治時代になると、欧米などでアホウドリの羽毛の人気の高まったよ。開拓者が鳥島や尖閣諸島に進出してたくさんのなかまがつかまったんだ。一時期は絶滅したとされたけど、今、少しずつなかまの数が回復しているんだ。



鳥島

- 伊豆諸島の鳥（八丈島から南に約300km）
- 直径が約2.5km、周囲が約7kmほどの火山島
- 島全体が天然記念物（天然保護区域）



鳥島の開拓者
玉置半右衛門
出典：国立国会図書館
ウェブサイト



海から見た鳥島
写真提供：山形鳥類研究所

尖閣諸島

- 東シナ海にあり、南西諸島の一部（石垣島の北方約170km）
- 魚釣島、久場島、大正島、北小島、南小島、沖ノ北岩、沖ノ南岩および飛瀬などの島々からなる（現在、アホウドリが営巣するのは北小島と南小島）



尖閣諸島の開拓者
古賀辰四郎
所蔵：一般財団法人古賀協会

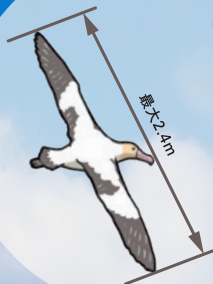


（左から）北小島、南小島
出典：内閣官房ウェブサイト



アホウドリの体を 観察してみよう！

体の大きさを見てみよう！



1

つばさを広げた長さはなんと、最大2.4m!!!
実際の大きさ（原寸大パネル）と背比べしてね！

2

細長い、滑空性能に優れたつばさで海上を広く行動するんだ！

3

大きな体なので、飛び立つために、
向かい風または助走を必要とするよ。
陸の上では、のんびり動くよ。

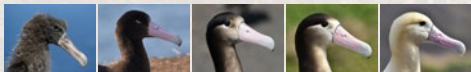
4

大きなつばさでは水中にもぐりにくいので、
海面にういている魚介類や魚卵などを食べるんだよ！

年齢と羽色の変化を見てみよう！

年齢とともに羽のようが変化し、成鳥の羽色になる
までに約10年かかります。個体差があるので羽のよう
から正確な年齢を知ることはできませんが、おおよその
成長の段階を知ることができます。

成長にともなった頭部のもようの変化



巣立ち直前

ごくわかい鳥

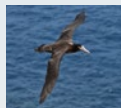
ややわかい鳥

わかい鳥

成鳥

成長にともなった羽のもようの変化

ごく
わかい鳥



わかい鳥



成鳥



顔も見てみよう！



管鼻

海鳥であるアホウドリには、ミズナギ
ドリ目の特徴である『管鼻』があり
ます。鼻の穴が管状に変形して何か
を出しやすくしているんだけど・・・
それはいったい何だろう？

⇒答えは、下を見てね！

アホウドリの羽色は成長にとも
なって変化するけど、なかまの
クロアシアホウドリと、コアホ
ウドリの羽色はほとんど変化
しないんだ。

海鳥は魚などを食べる時に海水も同時に取りこんで、体の中によぶんな塩分えん ぶんがたまってしまう。それを体の外に出すために「塩類腺えん るい せん」とよばれる器官き かんが目の上に存在し、管鼻かん びにつながっています（他に塩類腺えん るい せんを持つ生き物としてウミガメが有名ですが、ウミガメは目の後ろ側にあります）。実はアホウドリの鼻水もウミガメの涙なみだも、海水から出た塩分えん ぶんなのです。アホウドリは塩分えん ぶんを管鼻かん びから出すことにより、体の中の塩分濃度えん ぶん のう どを上手にたもっています。

⇒答えは「鼻水」

生きていたアホウドリ

～奇跡の復活への道のり～

かつては、尖閣諸島、伊豆諸島、小笠原諸島などを中心に、数百万羽のアホウドリがぐらしていました。ところが、1880年代から1930年代にかけて、アホウドリの乱獲が行われました。当時欧米では、白い羽毛が人気で高く売れたからです。

わずか50年ほどの間に約1千万羽ものアホウドリが人々の手によって命を落としました。ついには、1949年、「アホウドリは絶滅した」と発表されました。

1951年、鳥島で観測を行っていた中央気象台の職員は、島内の燕崎で、10羽ほどのアホウドリを見つけました。その後、職員が退去する1965年まで続いた保護活動によって、アホウドリは50羽をこえるまで回復しました。

その後、長谷川博さんや山階鳥類研究所ほかによる積極的な保護活動が行われます。アホウドリがぐらす鳥島が火山島であるので、より安全なすみかを確保するための努力が行われました。例えば、多くのデコイ（アホウドリの人形）とスピーカーで鳴き声を流すことで島内のより安全な場所で巣作りするよう誘導したり（デコイ作戦）、繁殖期になると育った島に帰る習性を利用して望島へのヒナのおひっこし作戦などが行われました。これらの成果により復活をとり、今では鳥島だけでも8,600羽以上に回復しました。



長谷川 博
(1948-)

東邦大学名誉教授、静岡県出身。
1973年 京都大学大学院生時代に
イギリス人鳥類学者ランス・ティッケル博士と出会い、アホウドリ保護の道を志す。1976年から現地調査を続け、アホウドリの保全に貢献した。主な著書に『風に飛べ! アホウドリ』(1995年、フレーベル館)、『オキノクウの島で』(2015年、惜成社)

写真提供: 本人

東邦大学 / 長谷川博
パッチャルラボトリ「アホウドリ復活への軌跡」

公益財団法人 山階鳥類研究所
「アホウドリ 復活への展望」

たくさんとられたアホウドリ



つかまって父島に運ばれるたくさんのアホウドリ
写真提供: 小笠原村

アホウドリの再発見



アホウドリを保護した中央気象台職員たちと、仲良く集合写真におさまるアホウドリ（中央）
撮影: 山本正司 写真提供: フレーベル館

ヒナおひっこし作戦

約40日齢のヒナを輸送します



2月上旬、鳥島（南崎）で、移送するヒナを捕獲する

ヒナの体重は、約4kgです



ヒナを安全に運ぶための専用ケース

背負子は、ヒナ2羽で15kg



崖の上まで背負子でヒナを運ぶ

ヒナが眠らないように、できるだけそばへ運びます



ヘリコプターで望島へヒナを輸送

シリコンガンにチューブをつけて給餌します



人工給餌でヒナを育てる

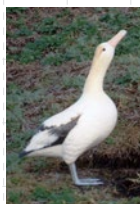
2月に鳥島から望島に輸送されたヒナは、5月には、島から飛び立ちます



望島に運ばれて2週間目のヒナ

写真提供: 山階鳥類研究所

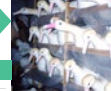
デコイ（おとり）作戦



設置



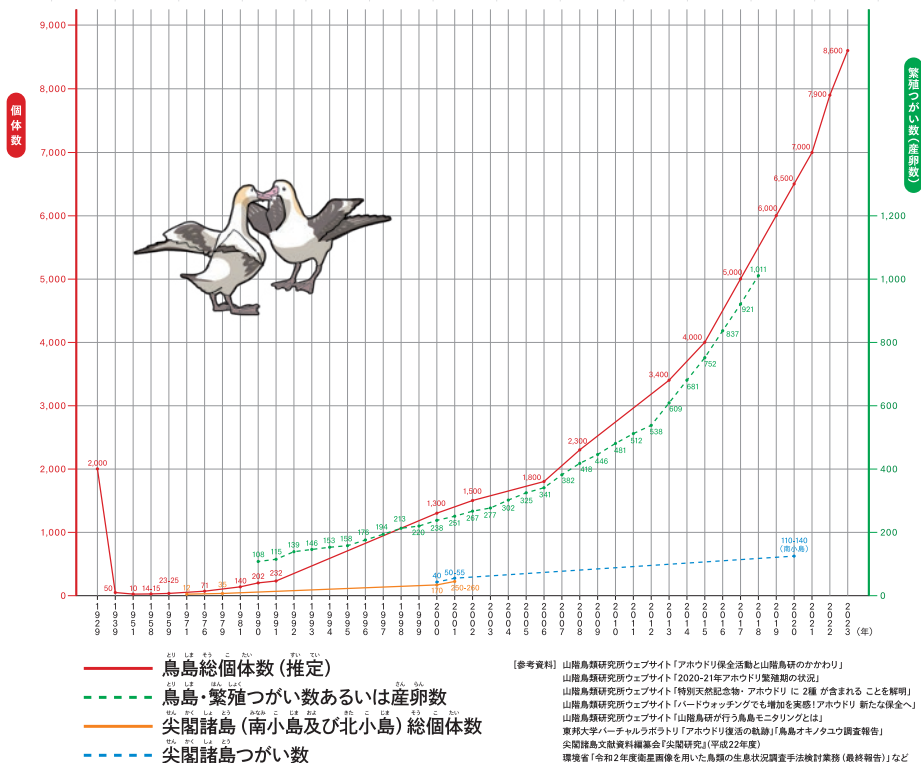
運ぶ



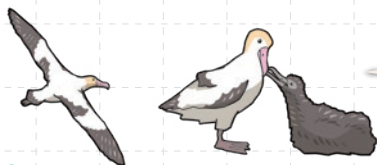
保管

図: 写真提供: 山階鳥類研究所

アホウドリの個体数 つがい数の推移



【参考資料】 山階鳥類研究所ウェブサイト「アホウドリ保全活動と山階鳥研のかかわり」
 山階鳥類研究所ウェブサイト「2020-21年アホウドリ繁殖期の状況」
 山階鳥類研究所ウェブサイト「特別天然記念物・アホウドリ に 2種 が含まれる ことを解明」
 山階鳥類研究所ウェブサイト「山階鳥研が行う鳥島モニタリングとは」
 資料大サバービュールボロシティ「アホウドリ保護の軌跡」(鳥島オキントウ調査報告)
 尖閣諸島文化資料編集委員会「尖閣研究」(平成22年度)
 環境省「令和2年度産卵調査を用いた鳥類の生息状況調査手法検討業務(最終報告)」など



2023-2024年の繁殖期の調査では、鳥島では1,173羽のヒナが、小笠原諸島の髯島では3羽のヒナが確認されたよ! いずれもモニタリング調査がはじまってから一番多いよ!